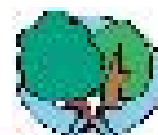
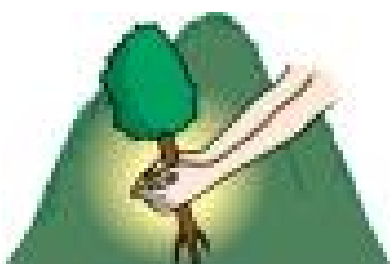


統計でみる

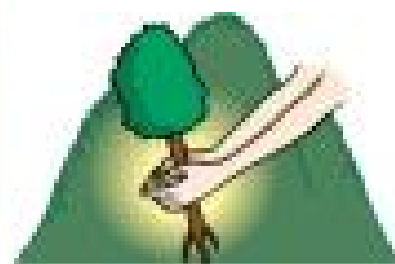


九州林業の概要

鉄肥（おび）杉（宮崎県）



令和6年11月
九州農政局統計部



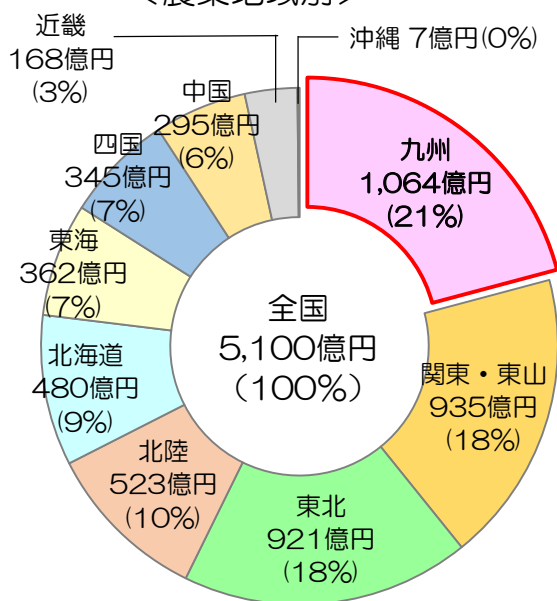
農林水産省

● 九州の林業産出額は全国の2割。

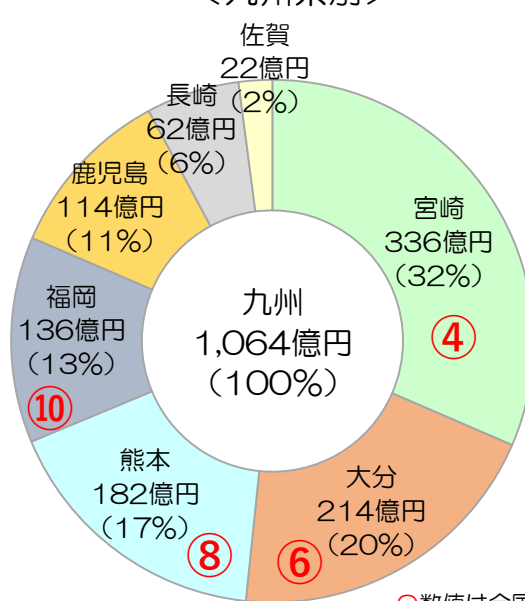


- 令和4年の九州の林業産出額は1,064億円で、全国の2割を占めています。
- 県別にみると、宮崎県が336億円（全国4位）で最も多く、次いで大分県が214億円（同6位）、熊本県が182億円（同8位）、福岡県が136億円（同10位）となっており、上位10位までに九州の4県が入っています。
- また、九州の林業産出額の推移を見ると、平成14年までは減少傾向で推移していましたが、その後は横ばいで推移し、平成25年からは増加に転じ、全国に占める割合が徐々に高くなっています。

◇林業産出額（令和4年）
＜農業地域別＞



◇林業産出額（令和4年）
＜九州県別＞

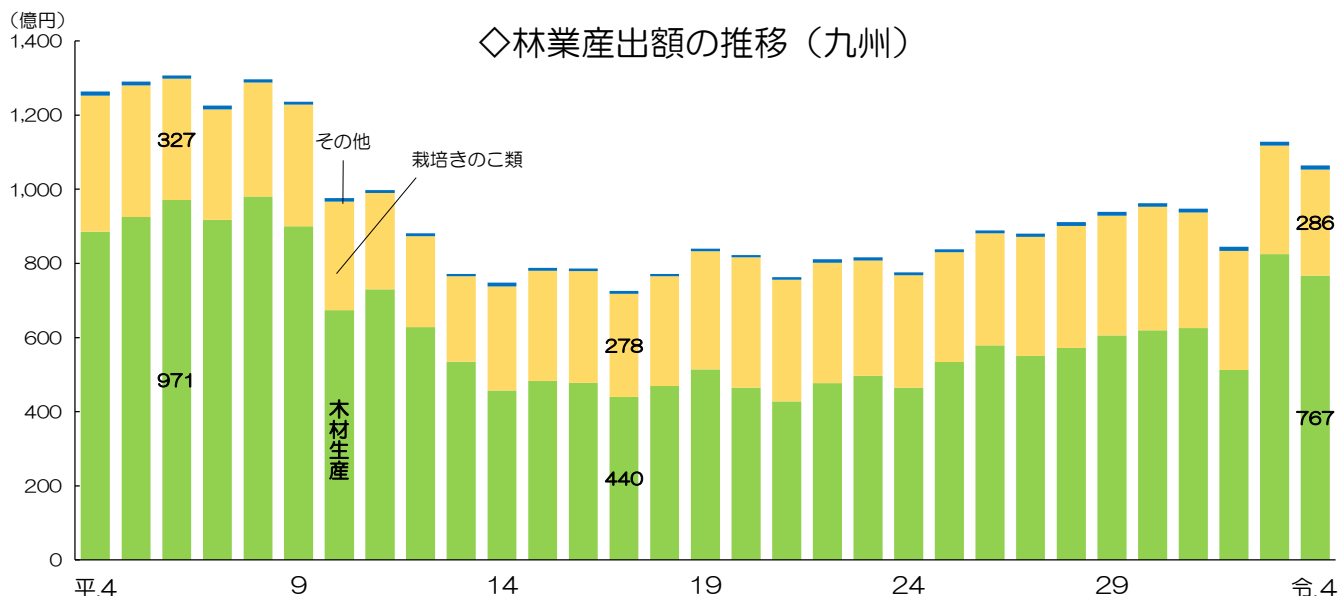


○数値は全国順位です。

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。（以下同じ）

資料：農林水産省統計部『林業産出額』（以下同じ）

◇林業産出額の推移（九州）



注1：林業産出額とは、1月～12月における都道府県別の品目別生産量に価格を乗じて推計したものです。

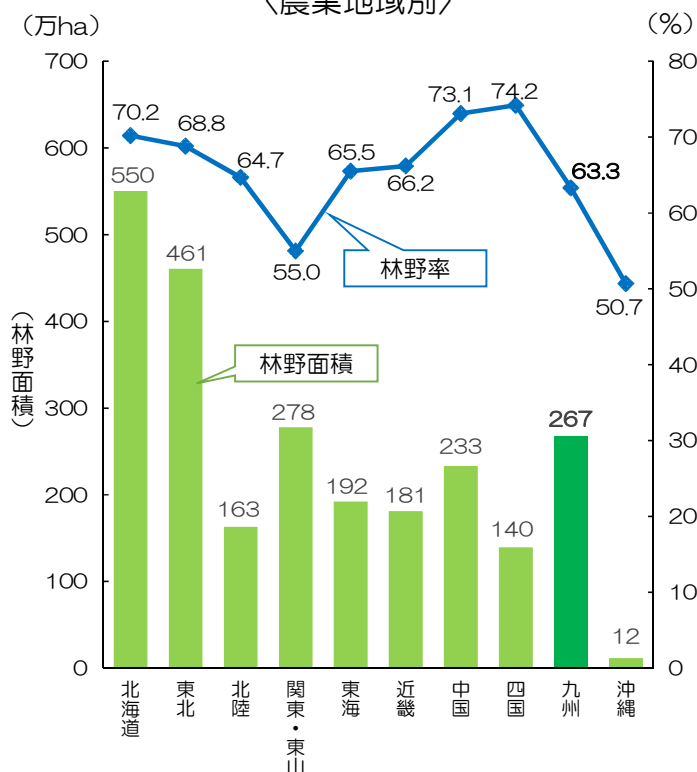
注2：この産出額には、パルプ用素材、輸出丸太及び燃料用チップ、まき、木ろう及び生うるしの産出額は含まれていません。

● 宮崎県と大分県は林野率が7割。

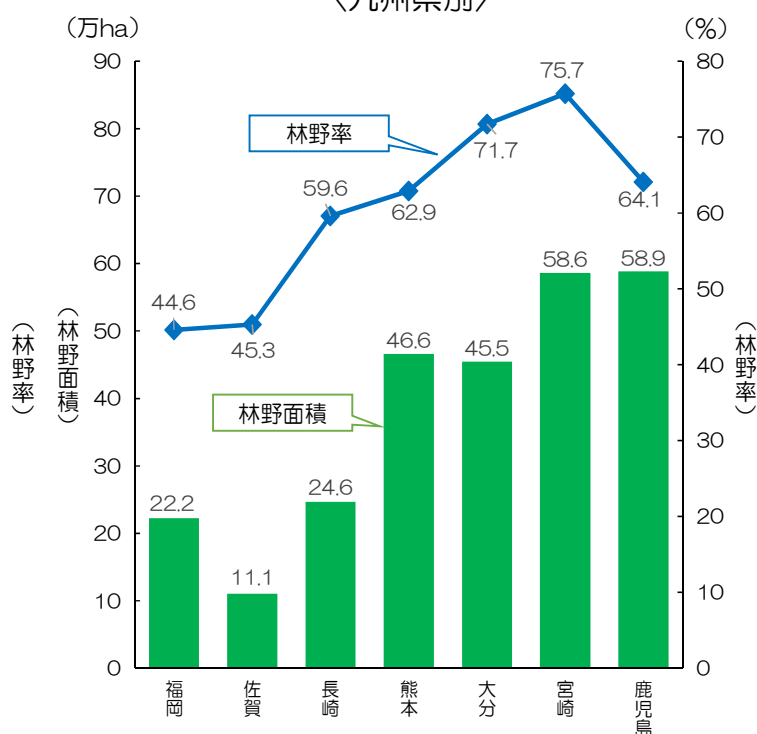


- 九州の林野面積は267万haで全国の11%を占めています。また、総土地面積に対する林野率は63%となっています。
- 林野面積を県別にみると鹿児島県が58.9万haで最も広く、次いで宮崎県が58.6万ha、熊本県が46.6万ha、大分県が45.5万haの順となっています。

◇林野面積及び林野率（令和2年）
〈農業地域別〉



◇林野面積及び林野率（令和2年）
〈九州市県別〉



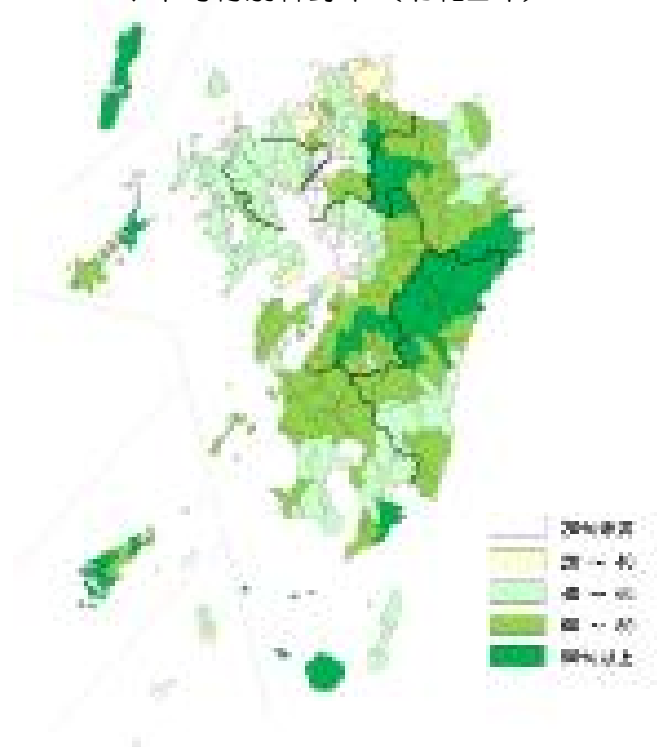
資料：農林水産省統計部『2020年農林業センサス』（以下同じ）

注：林野率は、総土地面積に占める林野面積の割合をいい、農業地域別は、総土地面積から北方四島及び竹島を除いて計算しました。

◇都道府県別林野率（令和2年）

全国順位	都道府県名	林野率 (%)
1	高知	83.7
2	岐阜	79.2
3	島根	78.7
4	山梨	78.2
5	奈良	76.9
6	和歌山	76.2
7	長野	75.9
8	宮崎	75.7
9	徳島	75.5
10	岩手	75.4
16	大分	71.7
28	鹿児島	64.1
31	熊本	62.9
32	長崎	59.6
39	佐賀	45.3
40	福岡	44.6

◇市町村別林野率（令和2年）

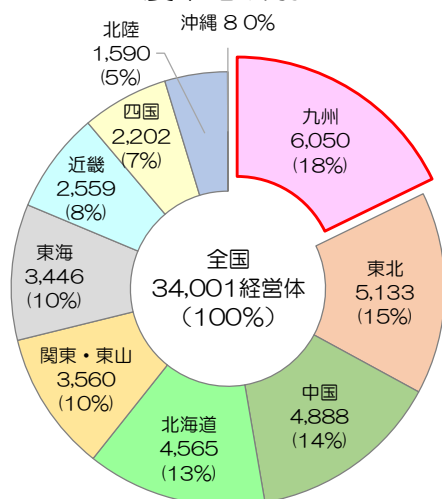


● 林業経営体は5年前に比べ57%減少。

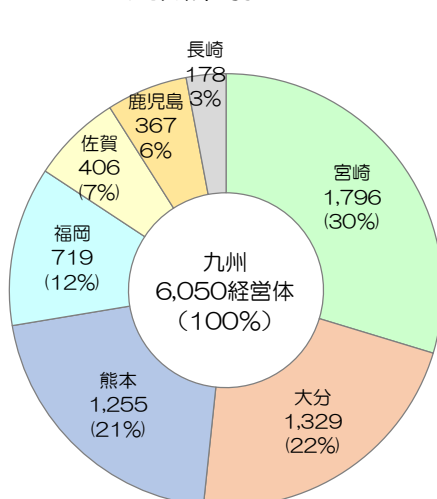


- 九州の林業経営体数（令和2年）は、6,050経営体で全国の18%を占めていますが、5年前の平成27年に比べ7,889経営体（57%）減少しています。
- 県別に見ると宮崎県が1,796経営体で最も多く、次いで大分県が1,329経営体、熊本県が1,255経営体の順となっています。

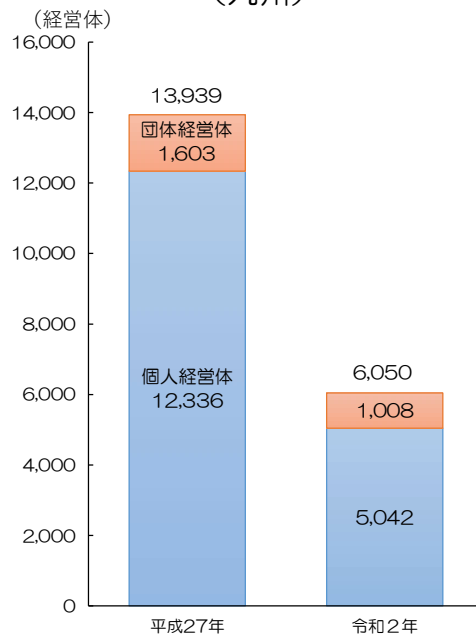
◇林業経営体（令和2年）
＜農業地域別＞



◇林業経営体（令和2年）
＜九州県別＞



◇林業経営体の動き
（九州）



資料：農林水産省統計部『2020年農林業センサス』（以下同じ）

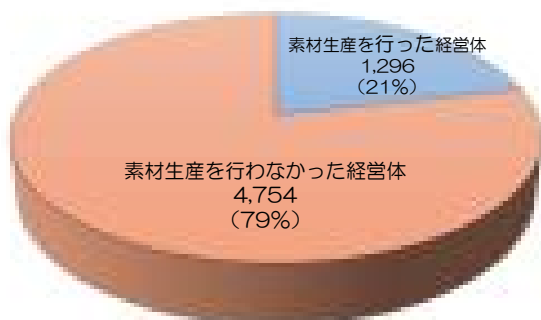
注：林業経営体とは、林産物の生産を行うか又は委託を受けて林業作業を行い、生産又は作業に係る面積が、次の規定のいずれかに該当する事業を行う者をいいます。

- （1）保有山林面積が3ha以上の規模の林業
- （2）委託を受けて行う育林若しくは素材生産又は立木を購入して行う素材生産の事業

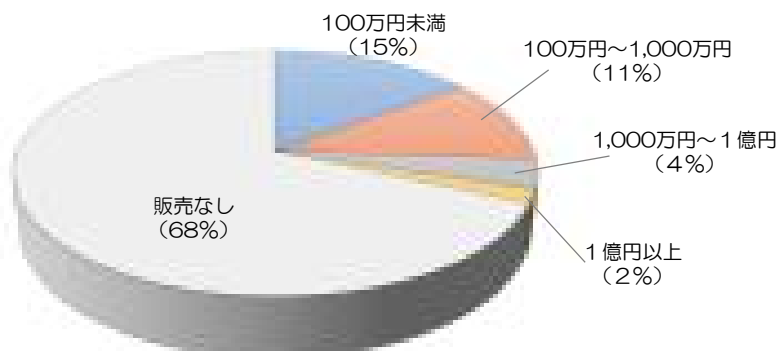
注：個人経営体とは、個人（世帯）で事業を行う経営体で、法人化して事業を行う経営体は含みません。
団体経営体とは、個人経営体以外の経営体をいいます。

- 林業経営体のうち、素材生産を行った経営体の割合は21%となっています。
- 林産物販売金額規模別経営体数の割合は、販売が無かった経営体が68%となっています。販売のあった経営体では100万円未満が15%と最も多く、1億円以上の経営体は2%となっています。

◇素材生産を行った林業経営体
（令和2年：九州）



◇林産物販売金額規模別林業経営体数割合
（令和2年：九州）



注：素材とは丸太のことをさし、原木ともいいます。

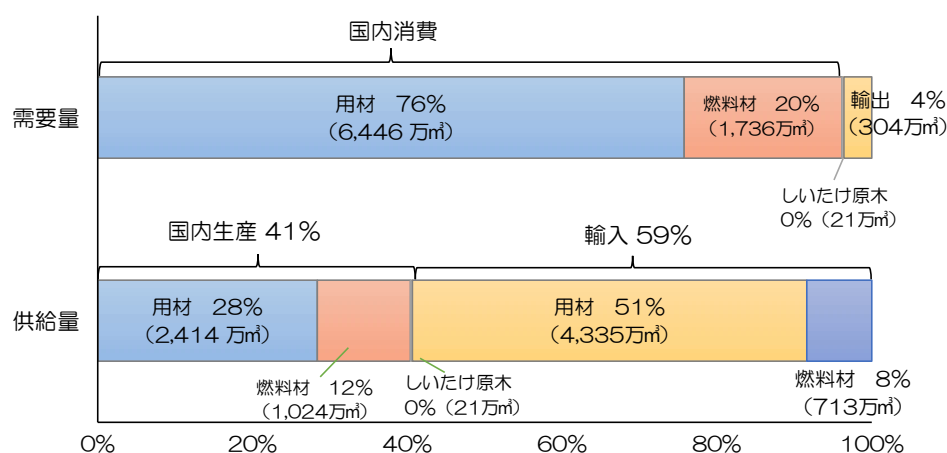
注：林産物とは、保有山林から生産・採取されたものです（立木を購入して生産した素材、栽培きのこ類、林業用苗木などを除く）。

● 木材供給量の4割が国内生産、自給率は上昇傾向。



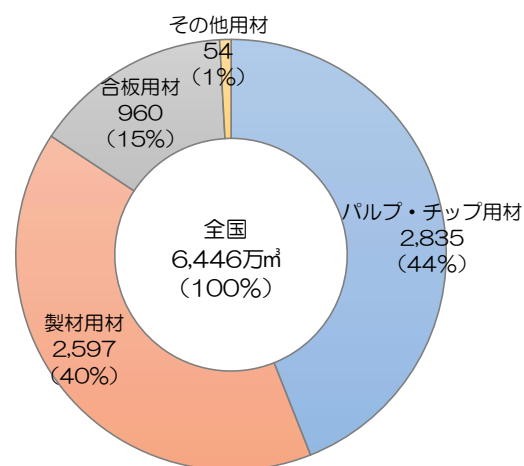
- 木材需要量の国内消費のうち用材が76%を占め、燃料材が20%となっています。また、輸出は4%となっています。
- 木材供給量は国内生産が41%、輸入が59%となっています。
- 用材を用途別に見るとパルプ・チップ用材と製材用材で8割を占めています。

◇木材需要量・供給量（令和4年）
＜全国＞



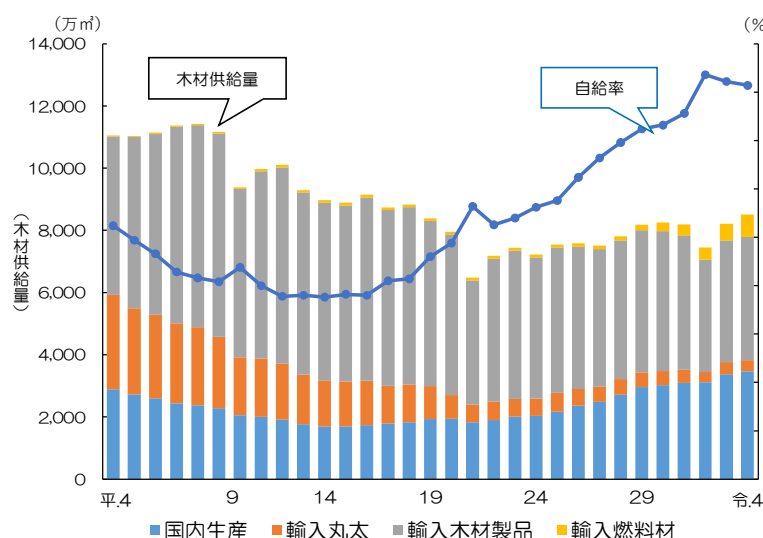
資料：農林水産省統計部 『木材需給表』

◇用途別の用材需要量（令和4年）
＜全国＞



- 国内生産の木材供給量は平成21年まで減少傾向でしたが、平成22年から増加に転じ、令和4年には3,459万㎡となっています。自給率は上昇傾向で、令和4年は40.7%となっています。
- 製材用素材価格は、木材需要の低迷や輸入材との競合から低下傾向でしたが、近年は輸入材の不足や国産材の需要が高まりにより価格は上昇しています。

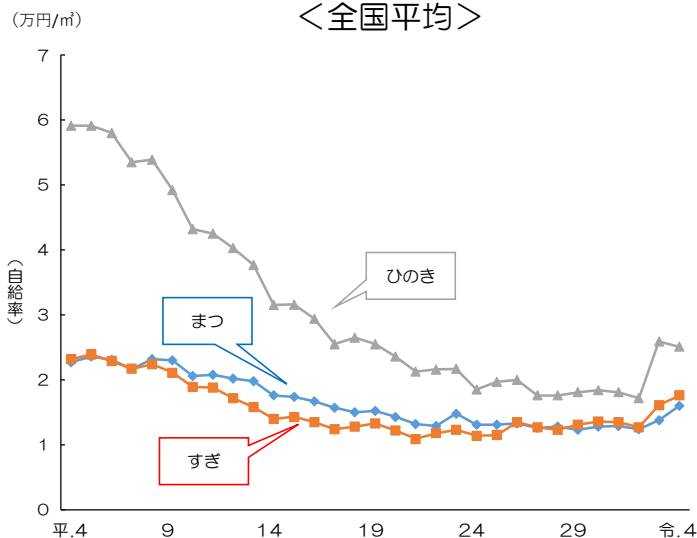
◇木材供給量と自給率の推移（全国）



資料：農林水産省統計部 『木材需給表』

注：輸入木材製品は、製材品、木材パルプ、木材チップ合板等です。

◇製材用素材価格の推移（丸太）
＜全国平均＞



資料：農林水産省統計部 『木材需給報告書』

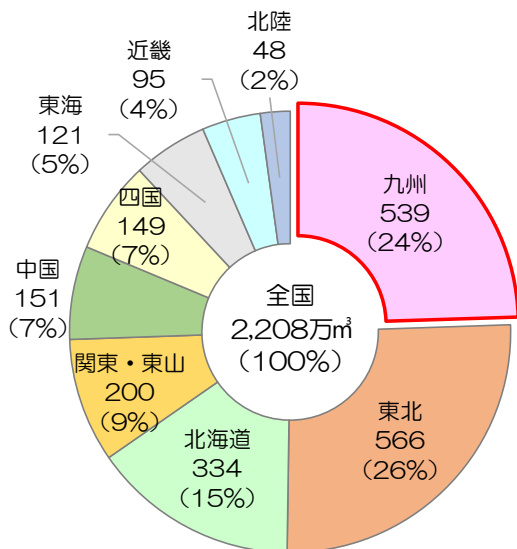
注：価格は各樹種の「中丸太」です。

● 九州の素材生産量は全国の24%を占め、増加傾向で推移。

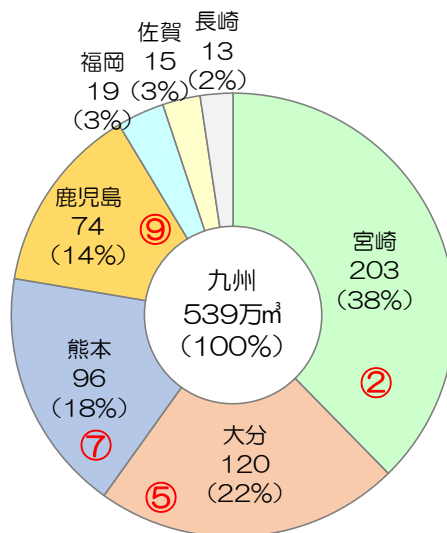


- 令和4年の九州の素材生産量は539万㎡で、全国の24%を占めています。
- 県別にみると、宮崎県が203万㎡（全国2位）、大分県が120万㎡（同5位）、熊本県が96万㎡（同7位）となっており、この3県で九州全体の約8割を占めています。

◇素材生産量（令和4年）
＜農業地域別＞



◇素材生産量（令和4年）
＜九州県別＞

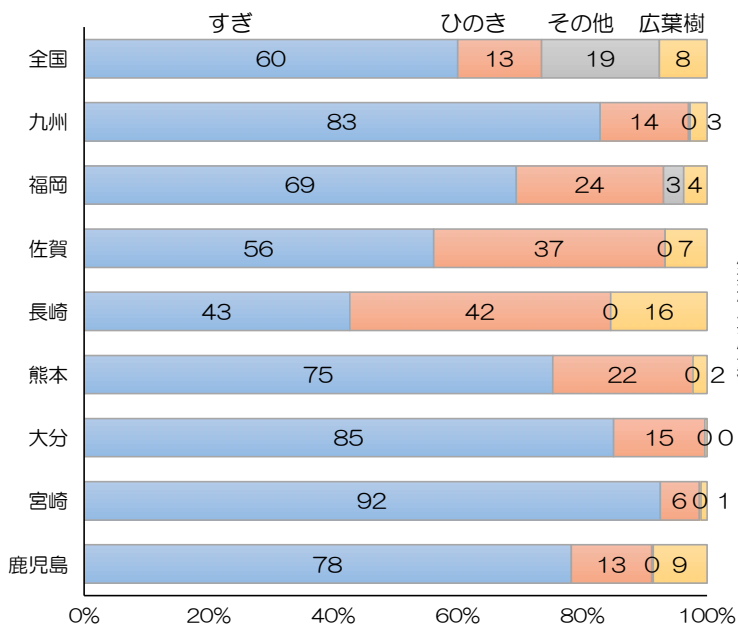


○数値は全国順位です。

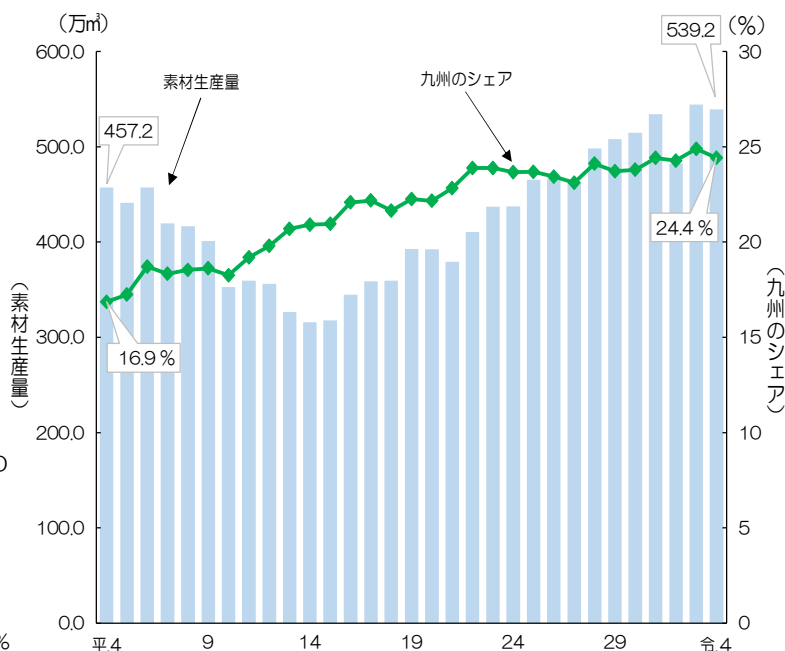
資料：農林水産省統計部『木材需給報告書』（以下同じ）

- 九州の素材生産量を樹種別にみると、全国に比べずぎの割合が高く83%となっています。
- 九州の素材生産量は、平成14年まで減少傾向で推移していましたが、その後、増加傾向に転じ、全国に占める割合も徐々に高くなっています。

◇素材生産量の樹種別構成割合
（令和4年）



◇素材生産量（九州）と九州シェアの推移

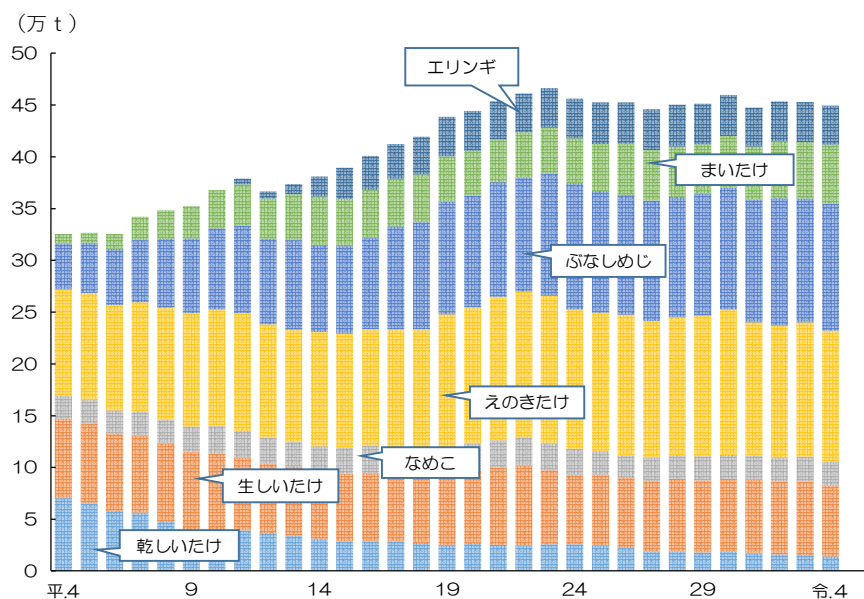


● 乾しいたけの生産量は、九州が上位を独占。

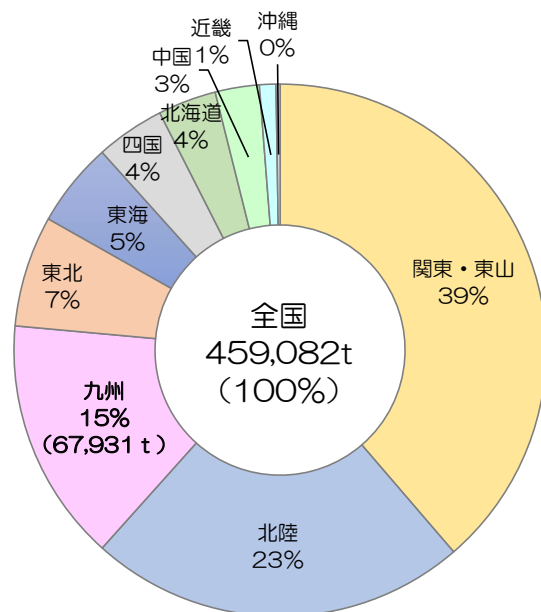


- きのこ類の生産は、平成23年まで増加してきましたが、以降は横ばいで推移しています。
- 品目別では、えのきたけ、ぶなしめじの生産量が増加しています。
- 令和4年の九州の生産量は67,931 tで、全国の15%を占めています。
- 都道府県別の全国順位は、きのこ類総計で福岡県（3位）、宮崎県（5位）、大分県（6位）、長崎県（8位）などとなっています。特に乾しいたけは、3位までを九州が独占しています。

◇きのこ類の国内生産量の推移



◇きのこ類の国内生産量（令和4年）
＜農業地域別＞



◇きのこ類生産量の全国順位とシェア（令和4年）

きのこ類総計				乾しいたけ（生換算値）				生しいたけ			
順位	都道府県名	生産量（t）	全国シェア	順位	都道府県名	生産量（t）	全国シェア	順位	都道府県名	生産量（t）	全国シェア
1	長野	154,487	34%	1	大分	5,382	38%	1	徳島	7,604	11%
2	新潟	98,202	21%	2	宮崎	2,521	18%	2	北海道	4,931	7%
3	福岡	28,404	6%	3	熊本	1,460	10%	3	岩手	4,392	6%
4	北海道	16,274	4%	4	愛媛	720	5%	4	秋田	4,141	6%
5	宮崎	12,143	3%	5	岩手	659	5%	5	群馬	3,664	5%
6	大分	10,527	2%	6	静岡	416	3%	6	福島	3,346	5%
7	静岡	10,090	2%	7	鹿児島	388	3%	7	栃木	3,155	5%
8	長崎	9,537	2%	8	長崎	312	2%	8	長野	2,985	4%
9	三重	8,724	2%	9	栃木	253	2%	9	長崎	2,726	4%
10	山形	7,987	2%	10	福島	148	1%	10	宮崎	2,643	4%

まいたけ			ぶなしめじ			えのきたけ			エリンギ		
順位	都道府県名	生産量（t）	順位	都道府県名	生産量（t）	順位	都道府県名	生産量（t）	順位	都道府県名	生産量（t）
1	新潟	36,621	1	長野	51,580	1	長野	74,853	1	長野	15,962
2	静岡	4,996	2	新潟	21,484	2	新潟	19,005	2	新潟	11,884
3	福岡	3,824									

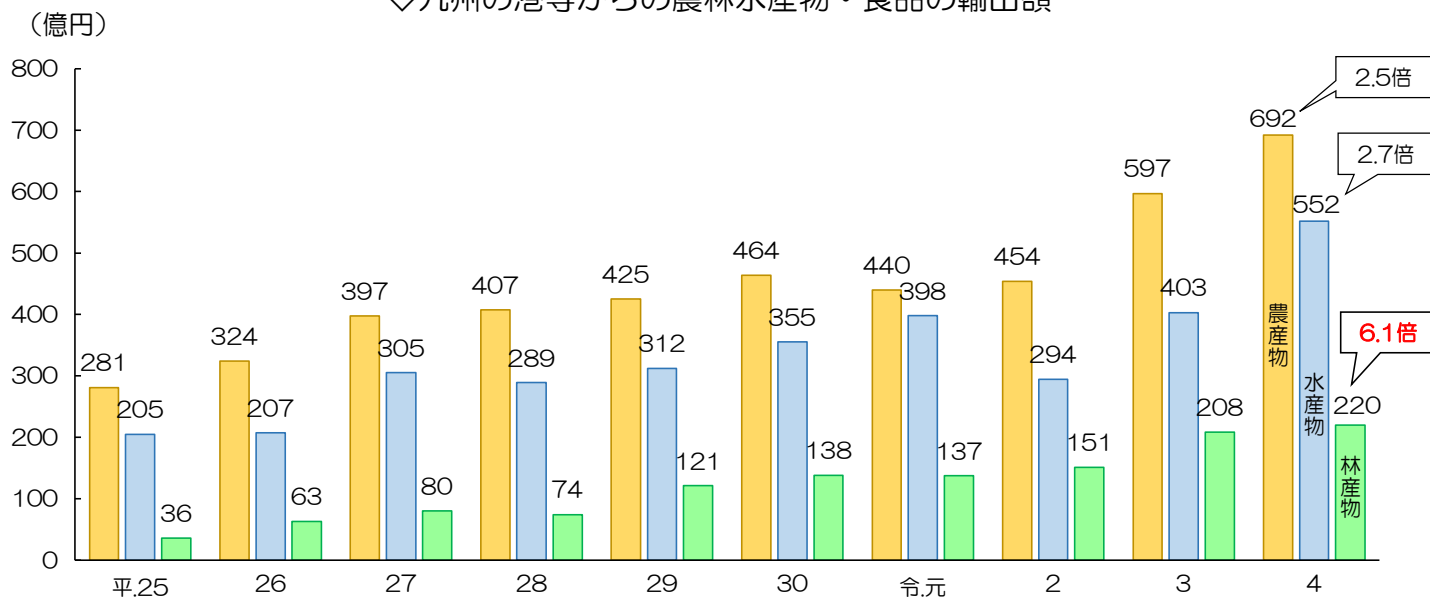
注：ぶなしめじ、えのきたけ及びエリンギについては、秘匿措置の県があるため3位以降は確定できません。

●九州から海外への丸太等林産物の輸出は増加。



- 令和4年の九州の林産物の輸出額は220億円で、全国（638億円）の34%を占めており、また、近年は農産物や水産物の伸びを上回って増加し、平成25年の6.1倍となっています。

◇九州の港等からの農林水産物・食品の輸出額



資料：九州農政局『見たい！知りたい！九州農業』より

注：グラフ中の吹き出しの数値は、平成25年の輸出額に対する令和4年の伸び率です。

◇九州の主な林産物の輸出品目と輸出先

【長崎県】

〈木材〉

→ 中国・韓国

令和4年度 2.2億円

【熊本県】

〈木材〉

→ 中国・韓国・アメリカ等

令和4年度 33.4億円

【大分県】

〈木材（丸太・製材）〉

→ 中国・台湾・フィリピン等

令和4年度 22.4億円

【宮崎県】

〈木材〉

→ 中国、台湾、韓国等

令和4年度 76.8億円

【鹿児島県】

〈木材（丸太等）〉

→ 中国、アメリカ、台湾等

令和4年度 33.8億円

資料：九州農政局『見たい！知りたい！九州農業』より

◆輸出取組事例

「地域と共に『ここでしか作れなものの』を世界へ」 宮崎県 株式会社杉本商店

【主な品目】乾しいたけ・しいたけパウダー

【主な輸出先】米国、EU、香港、台湾、ベトナム等（全24カ国）

【輸出取組の概要】

◆北米向け輸出のため FSMA 対応完了及び有機 JAS を取得。

◆更なる輸出拡大のため令和3年に国際規格認証 ISO22000を取得。

◆世界で唯一、原木栽培の乾しいたけで KOSHER（コーシャ）認証を取得。

【輸出実績】（平成29年度より輸出開始）

	輸出額(万円)	輸出量(t)
令和4年度	1,368	1.3
令和3年度	4,613	12.2
令和2年度	1,267	1.2

資料：九州農政局『農林水産物・食品の輸出取組事例』より

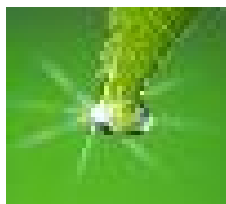
九州林業に関する主要統計指標

項 目	単位	年次	全国	九州	九州のシェア等	摘要（資料名）
林野面積	万ha	R2	2,477	267	10.8	『2020年農林業センサス』
林野率	%	R2	66.4	63.3	注1 △ 3.1	〃
林業経営体数	経営体	R2	34,001	6,050	17.8	〃
うち法人経営体数	経営体	R2	4,093	632	15.4	〃
林業従事者数	人	R2	43,710	8,540	19.5	『令和2年国勢調査』
うち35歳未満	人	R2	7,220	1,530	21.2	〃
35歳未満の割合	%	R2	16.5	17.9	注1 1.4	〃
素材生産量	千m³	R4	22,082	5,392	24.4	『令和4年木材需給報告書』
うち製材用	千m³	R4	12,937	4,331	33.5	〃
うち合板等用	千m³	R4	4,912	...	...	〃
うち木材チップ用	千m³	R4	4,233	...	...	〃
製材工場数	工場	R4	3,804	631	16.6	〃
合単板工場数	工場	R4	155	...	...	〃
木材チップ工場数	工場	R4	1,110	155	14.0	〃
しいたけ生産者数	戸	R4	14,205	7,409	52.2	『令和4年特用林産物生産統計調査』
乾しいたけ生産量	t	R4	2,034	1,463	71.9	〃
乾しいたけ生産量（生換算値）	t	R4	14,241	10,241	71.9	〃
生しいたけ生産量	t	R4	67,807	9,322	13.7	〃
林業産出額 ^{注2}	千万円	R4	50,998	10,643	20.9	『令和4年林業産出額』
うち木材生産	千万円	R4	29,282	7,673	26.2	〃
うち栽培きのご類	千万円	R4	20,795	...	...	〃

項 目	単位	年次	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島
林野面積	万ha	R2	22	11	25	47	45	59	59
林野率	%	R2	44.6	45.3	59.6	62.9	71.7	75.7	64.1
林業経営体数	経営体	R2	719	406	178	1,255	1,329	1,796	367
うち法人経営体数	経営体	R2	45	58	46	110	93	175	105
林業従事者数	人	R2	870	300	520	1,690	1,170	2,600	1,390
うち35歳未満	人	R2	100	70	70	380	240	390	280
35歳未満の割合	%	R2	11.5	23.3	13.5	22.5	20.5	15.0	20.1
素材生産量	千m³	R4	186	148	129	957	1,198	2,031	743
うち製材用	千m³	R4	155	116	75	744	889	1,869	483
うち合板等用	千m³	R4	9	6	x	125	288	96	145
うち木材チップ用	千m³	R4	22	26	x	88	21	66	115
製材工場数	工場	R4	95	44	42	127	109	122	92
合単板工場数	工場	R4	...	...	...	...	...	...	...
木材チップ工場数	工場	R4	16	6	4	33	40	33	23
しいたけ生産者数	戸	R4	714	82	313	680	3,290	1,221	1,109
乾しいたけ生産量	t	R4	21	5	45	209	769	360	55
乾しいたけ生産量（生換算値）	t	R4	144	35	312	1,460	5,382	2,521	388
生しいたけ生産量	t	R4	795	54	2,726	591	1,813	2,643	702
林業産出額	千万円	R4	1,355	220	616	1,819	2,139	3,355	1,139
うち木材生産	千万円	R4	274	206	159	1,599	1,604	2,828	1,003
うち栽培きのご類	千万円	R4	1,064	x	449	204	522	502	118

※注1：全国と九州の差（九州－全国）を表示しています。

※注2：「林業産出額」の全国値及び九州値は、都道府県別の合計値です。



九州農政局統計部 統計企画課

電 話:096-211-9111(内線:4922, 4923)

九州農政局ホームページアドレス <https://www.maff.go.jp/kyusyu/>